

地域別構想について（途中経過報告）

1 構想策定の目的

- ・ 市町村合併の進展によって、自然環境などの条件が似通った都市が増加していく中で、上越市が都市としての潜在力（ポテンシャル）を高めていくためには、市内各地域がそれぞれ長年にわたり培ってきた様々な地域資源に磨きをかけ、連携しあうことによって、都市の風格・個性を確立していくことが必要である。
- ・ 「心の豊かさ」が重視される21世紀において、このような市内各地域間の共存関係を構築し、内発的な発展に向けた取組を推進していくことが、都市そのものの魅力を向上させ、人や物の交流を生み出し、にぎわいの創出につながっていくものと考ええる。
- ・ また、人口減少社会において、地域の活力を維持していくためには、“わがまち・わが地域”に対する関心・愛着を高め、身近な地域でのまちづくり活動への参加意識を醸成していくことが求められる。
- ・ このように各地域に住むそれぞれの市民の思いを結集し、まちづくり活動を推進していくことが、地域コミュニティを確立し、ひいては市全体の発展を牽引していくことにつながっていくものと考ええる。
- ・ 一方、自治体運営の視点からは、市全体の政策方針を踏まえ、各地域への同様な施設整備など重複投資を回避し、それぞれの個性・特性に応じた機能分担の誘導などの取組も求められる。
- ・ こうしたことから、市内各地域のまちづくりのよりどころとなる地域づくりの目標やその方向性を示す地域別構想を定めることとする。

2 地域区分について

（1）合併前上越市の区域について

- ・ まちづくり活動のベースを地域コミュニティの単位に置く視点からは、地域別構想の地域区分は、地域自治区であることが望ましいが、平成19年3月現在、合併前上越市の区域には地域自治区は設置されていない。
- ・ したがって、ここでは土地利用の視点を基軸とし、河川・道路・山などの地理的な要素、主要道路、交通機関など都市基盤による要素、歴史・文化を踏まえた地域のアイデンティティ、日常生活圏などを含めた地域のまとまりとしての要素、地域の人口規模・人口集積や面積の要素などを勘案し、仮の区域として資料 7-1 の設定を行った。

（2）地域自治区（旧町村の区域）について

- ・ 13の地域自治区については、各区を地域コミュニティとみなすとともに、また各区の主体性を尊重する立場から、それぞれに地域別構想を策定するものとする。

3 地域別構想について

（1）合併前上越市の区域について

- ・ 現在検討中
（土地利用や都市構造の方向性を踏まえ、次回以降提示予定）

（2）地域自治区（旧町村の区域）について

- ・ 資料 7-2 のとおり（各区において現在検討中のものを提示。今後、土地利用や都市構造の方向性を踏まえ精査していく予定）

以上